

令和5年度 市長のタウンミーティング実施報告書（大町地区）

会場名	大町コミュニティセンター	日時	10月13日(金) 19時00分 ～20時45分
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画部長、総務部長、産業建設部長、民生部長、教育委員会事務局長、情報広報課長、地域協働課長、情報広報課 広報広聴係長(司会)		
参加者数	36名	YOUTUBE 動画	視聴者数(最高時点) 15人 チャット(投稿数) 2件



1.市長講話

市長 村椿 晃「自治基本条例・各地域におけるコミュニティセンターについて」
(20分程度 資料に基づき講話)

2.意見交換(地区からの提言・提案等について)

○ 公民館の建て替えを早く進めてほしい。またその際に大町幼稚園を改修するなどして、子ども館を併設したものにしてはどうか。

(村椿市長)

公民館の建て替えの話は、スケジュールを地元の方と話して決めていく段階に入っています。小学校の跡地を利用する計画ですが、文化財のため全く利用できないエリアと利用できるが調査が必要なエリアがあり、今は利用できるが調査が必要なエリアの相談をしています。厄介なのは、どこまで調査をしないといけないかは掘ってみないとわからないところです。大々的な調査をしなくても良いという結果が出れば、その次の年ぐらいから設計作業に入れるかもしれません。

もう1つは財源の問題です。従来学校などを改修する際は、大きな財源がないので市税で賄える規模を念頭に置いていました。新しく作るとなると市の単独では難しいので、国の補助金を使うことを考えています。交流センターは、国土交通省の補助金を令和3年から7年までの前期5カ年計画の中で認めてもらったため、次にその補助金の枠を活用するには1番早くても8年後という話になります。

大町幼稚園は現在園児が少なくなっていて心配なのは確かですから、改修をして使っていけばどうかというご提案はもってもです。即答はできませんが、参考にします。

○ たてもん運営に対する補助金が昔と比べて減っている。また、現在たてもんは7台あるが、町内会ごとに世帯数は異なっている。すべてが同じ運用というわけにはいかないと思うが、このことについてどう考えているか。

(村椿市長)

私が就任してすぐにたてもんのユネスコ無形文化遺産への登録の動きがあって、たてもんプロジェクトというものをおこしました。その際に、今後その地区だけで祭りを支えていくことは経済と人の問題の両面で無理になるだろうから、もっと広いエリアで支える取り組みをしましょうとお話しました。コロナ禍でしばらく動きが制限されていましたが、この間たてもんプロジェクト再始動の話ができました。ですから、予算付けを進める上でまたご意見をいただきたいと思います。

人の問題は、ワーケーションとって都会から「祭りの事前の準備から後片付けまで手伝ってみたい」という人に来てもらって、今年は20名ほどにたてもんに関わってもらいました。今後もそういった取り組みを続けていけたらと思っています。

○ 新宿地区の高齢化が進んでいる状況を知ってほしい

(村椿市長)

現状は確かにおっしゃる通りです。コミュニティセンターが目指すのは、簡単な言葉で言う「助け合いをどうやって広げるか」です。

具体的に言うと、高齢者の暮らしの応援をどうするか。制度や仕組みだけではなく、万が一の時にどうやってカバーするかを一緒に考えることがコミュニティセンターの根幹です。これは、市だけではなく地域の皆さんと一緒にやらないとうまくいかないと思います。高齢化が進んでいるからこそ、そういったところにこそ予算を投入することが大事だと思います。今までは人を引っ張ってくることに重点を置いてきましたが、日本全体の人口が減る中でその取り合いにお金を投入するのではなく、今いる人に「ここで暮らしていける」と思ってもらえるようなことを一緒に考えていけたらと思っています。

○ 県が進めているウェルビーイングの取り組みについて、魚津市はどのように関わっていくつもりか

(村椿市長)

ウェルビーイングについては、県政が成長戦略の柱ということで掲げています。先ほどワーケーションと言いましたが、これは、通勤にかかる無駄な時間をもっと充実した仕事環境や自分のやりたいことに使うというのが出発点です。時代に合った働き方で1人1人の生き方を充実させ、結果として企業や組織が活性化して成長率が上がるというストーリーです。今年の夏は、魚津市独自で「魚津ウェルビーイングウィーク」という企画を行いました。県とも連絡を取りながら進めていこうと思っています。

○ 大町地区に関わらず、インフラが古くなっている。もうそろそろ改築を考えていかないとダメな時期だと思う。国の施策や地区住民の協力のうえ、新たな施策を打っていただきたい。

(村椿市長)

開発の話で、ある人が言うのは「村木も大町も年寄りばかりだけれど、それが逆に特徴だから、そういうところを捉えた町開発やロケをしたらどうか」ということです。どうということかという、例えば防火帯建築の一角をシェアハウスにしてシルバーのシェアミニタウンみたいなものを作るといったことです。しかし、市役所で勝手に決めても実現できないので、こういう考え方もあるということで、どのくらいお金がかかって、利用料はいくらにするのかなどについても含めて考えていきたいと思います。

○ 通学路の確保について(樹木の伐採、除雪)。

(村椿市長)

県道整備については県土木の方にまた伝えていきます。

除雪の話は、3シーズンぐらい前の大雪で450センチほど積もったことがありますが、あの時は県庁の方に直接電話をしました。小学校のそばは県道の歩道が多いので、緊急的に年明けも歩道除雪に入ったのですが、元々歩道除雪は機械でやることを想定していないので上手くいきませんでした。その後、除雪機を使って一部業者さんや地域に貸すという話も出ていたのですが、これからは地域で頑張るというだけでは済まされないようになっています。例えば除雪費を充実するですとか、何か対策が必要だと認識しています。

○ 融雪装置の老朽化が進んでいるので、その対策を検討してほしい。

(産業建設部長)

おっしゃる通り融雪装置は市内にいくつもありますが、老朽化が進んでいるため更新に全力で取り組んでいるところです。一遍にはできませんので、少しずつ進めています。また協議をさせていただきたいと思います。

市道は全長が410キロあります。高速道路でいうと魚津市役所から品川までの距離になりますが、ほとんどが機械除雪で新しい融雪装置の整備は控えておりまして、今ある融雪装置のメンテナンスですとか、ポンプの交換を一生懸命やらせていただいています。結構長い距離ですけれど、業者の皆さんを始め地域の皆さんのご協力をいただきたい部分がございまして、これからご相談をさせていただきたいと思っています。

○ 昭和31年ごろの都市計画では、周りが木造の燃えやすい住宅ばかりだったから防火建築帯の必要性があるということだったが、今は不要ではないか？防火建築帯に指定されていると建物を壊したり建てたりするのが大変。都市計画の見直しをしてほしい。

(村椿市長)

確かに都市計画も、その時代とか社会環境に応じて変わっていくべきものだと思います。私が昔、隣地を購入した際は、壊す時にすごくお金がかかったので、個人でやってこうとするとすごくハードルが高いということは感じています。

先ほどシルバーシェアハウスの話を言いましたが、ある程度の区画で考えて、それを自

由化していくことが必要だと思ひますし、都市計画の部分で見直し、考へていくべき課題だと思ひています。